



令和7年9月29日

東京学芸大学附属高等学校 第24回 公開教育研究大会・SSH 事業報告会（ご案内）

東京学芸大学附属高等学校長 羽田 邦弘

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第24回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。

是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

「生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント（3）～生徒エージェンシーをどう育て、どう評価するか～」

本校では、一昨年度から「生徒エージェンシー」の育成を主題として掲げてきました。昨年度は、特に「教科間融合・連携」に注目し、どのように生徒エージェンシーを育むことができるか討論を深めてきました。

今年度は、「エージェンシー尺度」を用いた質問紙調査を実施すると共に、この尺度を授業分析の視点として、生徒エージェンシーを育む授業づくりについて研修を重ねてきました。そして本研究大会においては、生徒エージェンシーを育む授業づくりに加え、その評価の方法についても公開授業を通して議論を深めたいと考えています。

2. 日時等

日 時 令和7年11月29日（土） 午前9時30分から

場 所 東京学芸大学附属高等学校 東京都世田谷区下馬 4-1-5

9:00	9:30 ～ 9:50	10:00 ～ 10:50	11:10 ～ 12:00	12:45 ～ 14:15	14:30 ～ 16:00	16:10 ～ 17:00
受付	全体会	休憩 公開授業Ⅰ	休憩 公開授業Ⅱ	昼休み 研究協議会	休憩 講演会	休憩 SSH事業報告会

公開授業Ⅰ（10:00～10:50）及びⅡ（11:10～12:00） 2時間連続授業

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
SSH 地球科学 (教科融合) 地理総合と地学基礎を 融合させた学校設定 教科	(分野：防災) *人数制限あり 先着順です	栗山 絵理 (松本 至巨) (齋藤 洋輔)	自然地形と防災・減災 ～SSH 地球科学における ハザードマップの活用～	「防災教育」は複数の教科・科目の学習指導要領でその必要が言及されている。本授業では、ハザードマップを活用し、日頃から生活圏を空間的に把握して、災害時には適切な行動を取る判断力を伸長したい。さらに、高校生ができる共助の姿勢を養いたい。
	(分野：国際理解/ 大気・海洋)	松本 至巨 齋藤 洋輔 (栗山 絵理)	生活文化と地球システム ～SSH 地球科学による 教科融合の観点より～	今年度より SSH 地球科学の実践が始まり、カリキュラムの構築を日々進めている。本時では、地理分野の「生活文化の多様性と国際理解」、地学分野の「大気・海洋分野」の単元を題材に、生徒エージェンシーを育む観点から教科融合の様子を示したい。
国語科＋数学科 (教科連携)	文学国語 数学Ⅰ	日渡 正行 荻原 洋介	論説文を数学で読む	論説文は論理的文章である。数学は論理を学習する。数学の論理を用いて論説文を読むことで、解釈がどのように変化するのか、または解釈の整理ができるのか、その可能性を考えたい。
保健体育科	体育	松川 想	チームで取り組む テニス学習	初めてテニスを行うことがほとんどの生徒を対象に、全8回の授業を行う。個人競技であるテニスを素材に、チームで学習し協同的な学びにつながるような授業を目指す。
芸術科	音楽Ⅰ	居城 勝彦	私の知らない音楽	自分が好きな音楽は、おそらく誰にでもある。自分が知らない音楽は、きっと誰にでもある。仲間と音楽室で活動できるのは高校生活が最後となる生徒たちと「知らない音楽」を知り、知らなかった背景にも迫りたい。

芸術科	工芸Ⅰ	神田 春菜	〇〇な場面で使用する食器を提案しよう	この授業ではA表現（２）社会と工芸の題材を取り扱う。使い手にとって機能的であり、かつ使い手が美しさを感じる造形にするためにどのような工夫が必要か。制作した試作品と既製品を比較しながら分析する。
	書道Ⅰ	松原 直也	散らし書きを通じて	散らし書きは行の高低、行間の広狭の変化の学習等に留まることがあるが、より多角的な視点から学習できる。散らし書きを通じ幅広い視点から学習に取り組むことができるようにする。

公開授業Ⅰ（10:00～10:50）

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語科	言語文化 （古典）	喜古 容子	説明されない古典	『伊勢物語』の「筒井筒」を扱う。『伊勢物語』の表現の簡潔さに注目し、登場人物の心情について生徒たちに想像させる。その際に、古語の意味や古文常識に着目することで、古文の読みが深まることを体感させたい。
理科+数学科 （教科連携）	生物基礎 数学ⅠA	小境 久美子 青山 久美子	がん検診をすすめるか？	がん統計の年齢階級別罹患率などのデータ分析を数学的な見方から、発がんのメカニズムを生物学的な見方から考える。それらをもとに、がん検診を身近な人に勧めたり、将来自分自身が受診したりすることの根拠を考える。
家庭科	家庭基礎	野澤 風沙	老いること・ 歳を重ねること	本授業では、高齢化の現状と、それに伴う諸問題を扱い、高齢化による影響と支援制度について学習する。これらの知識をもとに、高校生という高齢者を支える立場から、「老いる」ことの真髄について考える。

公開授業Ⅱ（11:10～12:00）

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語科	言語文化 （近代以降の文章）	若宮 知佐	古典と近代文学に 連続性はあるか	「羅生門」の授業で学んだ近代小説の技法を用いて既習の古典作品を近代小説にリライトする。さらにその活動を通して、古典と近代以降の文章との連続性と断絶について探究する。我々が用いている言語文化の特質の一端を知ること、自覚的な言語の使い手となる素地を育成する。
理科	物理基礎	能代谷 賢治	光の回折・干渉	複スリットによる光の干渉実験（ヤングの実験）を行う際、その実験結果と生成 AI を活用したプログラミングによるシミュレーションと比較・議論させる。これにより、成長マインドセットや批判的思考の育成を目指す。
外国語科 （英語科）	英語コミュニケーションⅡ	伊藤 賢佑	インタラク션을 通した内容理解 －教科書本文の再利用－	教科書本文を一度読み終えた後の言語活動として、同じ文章を用いたペア活動（内容に関するインタラク션）を実施する。繰り返し教科書本文にふれさせることで、より確実な内容理解や語彙・表現の定着を図る。

研究協議会 (12:45～14:15)

公開授業および融合・連携した科目のカリキュラムについて協議します。参観された授業ごとに研究協議会にご参加ください。

教科	提案者	研究テーマ	助言者(敬称略)	所 属
国語科	国語科	物語で日本語の今と昔を考える	紅野 謙介	日本大学名誉教授 公益財団法人日本近代文学館専務理事
SSH 地球科学 (①防災)	地理歴史科(地理) 理科(地学)	「ハザードマップを信じるな？」を どう伝えるか	宇根 寛	元 国土地理院 お茶の水女子大学文理融合 AI データサイ エンスセンター研究協力員
SSH 地球科学 (②国際理解/ 大気・海洋)	地理歴史科(地理) 理科(地学)	学校設定教科「SSH 地球科学」の 可能性と課題	久田 健一郎	NPO 法人地学オリンピック日本委員会 理事
			秋本 弘章	獨協大学経済学部教授
国語科+数学科	日渡 正行 荻原 洋介	国語の文章を数学を利用して整理する	千田 洋幸	東京学芸大学日本語・日本文学研究講座 国語科教育学分野教授
			成田 慎之介	東京学芸大学大学院教育学研究科 准教授
生物科+数学科	小境 久美子 青山 久美子	データや科学的知見をもとに行動変容を 促す	長尾 篤志	東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 特命教授
理科	理科	生徒エージェンシーの育成を目指す 理科授業の検討	小林 一人	文部科学省国立教育政策研究所 初等中等教育局教育課程課教科調査官
芸術科(音楽)	居城 勝彦	音楽で地球市民を育てる	小山 英恵	東京学芸大学教育学部総合教育科学系 教育学講座学校教育分野准教授
芸術科(工芸)	神田 春菜	生徒エージェンシー育成を目指し、どの ように美術、工芸の題材を設定するか	古瀬 政弘	東京学芸大学芸術・スポーツ科学系 美術分野教授
芸術科(書道)	松原 直也	生徒エージェンシーの育成と仮名の書の 学習	加藤 泰弘	東京学芸大学大学院教育学研究科教授
保健体育科	保健体育科	体育における生徒エージェンシーの 育成と評価	岡出 美則	日本体育大学スポーツ文化学部 スポーツ国際学科教授
家庭科	野澤 風沙	生徒エージェンシーの育成を目指す 高齢者分野学習の検討	渡瀬 典子	東京学芸大学総合教育科学系生活科学 講座家庭科教育学分野教授
外国語科(英語)	伊藤 賢佑	教科書を活用した言語活動の展開	金谷 憲	東京学芸大学名誉教授

講演会 (14:30～16:00)

テーマ 「エージェンシーを切り口にした授業の実践と評価」

講 師 福井大学大学院連合教職開発研究科 教授 木村 優 氏

「エージェンシー」は、OECD Education2030 により、学習者がより良い未来に向け主体的に行動する力と示され、日本でも教育政策の中心概念となった。しかし、学校現場で研究や実践が進む一方で概念理解の難しさが課題となっている。講演では社会学・心理学・教育学の議論を整理し、具体的な実践事例をふまえながら、子どもたちと教師たちのエージェンシーを対話と物語を通じて育む実践と評価の方向性を示す。

SSH 事業報告会 (16:10～17:00)

本校は SSH 事業の第Ⅲ期目指定を受けており、研究開発課題「生徒エージェンシーを育むための次世代理数カリキュラムの開発と普及」を掲げ、カリキュラム改善に取り組んでいます。本事業報告会では、本校 SSH 事業の概要説明と共に、本校 SSH 事業の4つの柱である「事業次世代人材のための教科融合・教科連携での授業開発」、「SSH 探究基礎・SSH 探究・発展 SSH 探究」、「国際交流」、「SSH 特別授業」について報告いたします。

3. 後援

東京都教育委員会

4. 参加申込

公開授業および講演会への参加申込は、10月10日(金)から受け付けます。申し込みは右のQRコードから
もしくはこちら↓

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeg4hB5li4Z7CUFU0aLxKBC2ASiDFR8AvsIo0BB0NIDL2mw/viewform>



5. 本校へのアクセス

<https://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp/access/>

① 電車

- ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩 15 分
- ・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩 20 分

② バス（東急バス）

- ・【渋谷駅】西口 31 番バスのりば「渋 32 野沢龍雲寺循環」行き
- ・【三軒茶屋駅】6 番バスのりば「黒 06 目黒駅」行き
- ※ いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩 1 分

6. その他

① 参加費は無料です。

資料については、実費をいただく場合があります。

② 昼食の御用意はありません。

各自でご用意ください。お食事をする部屋はご用意いたします。

なお、学校周辺にはコンビニ等の商店はありますが、飲食店はございません。

③ 本校の研究活動については、こちらからご覧ください。

<https://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp/research/lists/>



本件に関するお問い合わせ先

東京学芸大学附属高等学校

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

TEL:03-3421-5151(代) FAX:03-3421-5152

E-mail:gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp

担当教員 研究部長 齋藤 洋輔（地学）